

糖尿病食事療法について

栄養科 栄養係長 小林 知代

糖尿病の治療には食事療法・運動療法・薬物療法がありますが、食事療法は予防から重症化予防のどの時期でも、誰でもできる最も重要な治療方法です。

治療のための食事という窮屈に感じられると思いますが、糖尿病食はバランス良く自分の体格にあった食事をする事ができる「健康食」です。また日本人の平均的な食事スタイルと変わらない食事ですので、家族そろっておいしく食べていただきたいと思います。

当院の栄養相談では、糖尿病の食品交換表やフードモデルを使い、医師から指示されたエネルギー量で、栄養バランスの良い食事のとり方をご説明しています。ご自宅での食事記録を見ながら、どうしても間食したい患者さんには低エネルギー甘味料を使ったお菓子の作り方や、通信販売で買える低糖質のお菓子の紹介を行うなど、食事療法を長く続けるアドバイスをしています。

また、糖尿病性腎症が進展し食事療法が大きく変わることにより、戸惑う患者さんが多くいらっしゃいます。透析予防チームが関り、栄養相談を続けて受けていた

くことで、病期にあった食事療法を支援しています。

糖尿病には民間療法やサプリメントなどが多く出回っていますが、これだけで糖尿病が良くなるというものはなく、かえって悪影響が出ることもありますので、主治医にご相談されることをお勧めします。

栄養相談を希望される方は、市立札幌病院でも受講できます。かかりつけの主治医にご相談ください。

糖尿病治療の目標は「健康な人と同様の日常生活を送り、変わらない寿命を全うする」ことです。これからも、糖尿病のある人生を心豊かに健やかに生きていただくためのお手伝いをさせていただきますと思っています。



糖尿病の集団指導の様子と、糖尿病食のモデル献立

新MRI3.0T導入

放射線部 撮影技術課長 貴志 孝行

当院放射線部では、新パワーアッププランの策定に基づき、検査装置の更新が行われておりますが、3.0T(テスラ)MRI装置の導入が完了し、平成27年4月より本稼動しております。

今回導入した装置は、オランダPHILIPS社製ingenia3.0T超伝導磁気共鳴画像診断装置で、従来のMRI装置に比べて2倍の磁場強度を持ち、データ収集処理をすべてデジタル化することによって、高精細な画像情報を提供することが可能となりました。

同時に、高精度に脂肪抑制された画像を含め、診断価値の高い高画質な画像を提供できるほか、必要に応じて3D画像の提供も行っております。

さらに、最新の処理ソフトを導入し、造影剤を使用せず

に脳血流の評価や、MRSの定量も可能となっております。

また、検査装置内空間の直径が以前より10cm広くなっており、閉所に不安のある患者さんにも、より快適な検査環境を提供させていただくことが可能となりました。

MRI検査のほか、各検査装置にも看護師を含め常時複数名のスタッフで対応しており、検査時の安全確保にも努めながら患者さんや検査依頼される医師の皆様には有用な画像情報の提供を行っておりますので、この機会に是非御利用ください。



PHILIPS社製ingenia 3.0T超伝導磁気共鳴画像診断装置